# 男女が並んで全裸を写真に撮られた、県の発育検診

とある学校での出来事。県の発育検診のモデル校に選ばれたこの学校では、思春期の身体的変化を詳細に記録し、統計データとして活用するという名目で、男女3人の全裸を記録として残さなくてはいけなくなった。今年は1年の武史、2年の里帆、3年の彩の3人が代表として写真を撮られることになった。

保健の藤原先生が、にこやかに説明する。

「今日は3人まとめて撮影します。恥ずかしいかもしれませんが、指示通りに動いてくださいね。今回撮った写真が外部に漏れることは絶対にないから、安心して。」

部屋の中央には三脚に固定された高性能カメラと、明るい照明が設置されていた。空気は少し張りつめていて、保健室の独特の匂いが漂っていた。

左に里帆、中央に武史、右に彩が並ぶ。三人ともセーラー服と学ランでまっすぐに立った。シャッター音が響く。まだこの時点では、ただの記念撮影みたいな感じがあった。

里帆が小さく笑って言った。

「男子がまさか一緒だなんて思わなかった笑」

「僕もまさか、女子と一緒に撮るなんて・・・」

藤原先生の指示が飛ぶ。

「上着を脱いでください。全員下着姿になります。」

里帆と彩は慣れた手つきでセーラー服を脱ぎ始めた。白いブラウスのボタンが一つずつ外され、スカートがするりと落ちる。里帆は可愛らしい青い花柄のブラジャーとパンツ姿に、彩は清楚な白いブラジャーとパンツ姿になった。2人の下着姿は、制服の上から想像していたよりもずっと色っぽく、胸の膨らみや腰のくびれ、太ももの柔らかいラ

インが露わになって武史の視線を釘付けにした。里帆の青いブラジャーは胸の谷間を優しく包み込み、彩の白いブラジャーは彼女の豊かな胸の形を強調していた。

武史もワイシャツとズボンを脱ぎ、下着一枚で立った。すでに股間がむずむずと熱を持ち始め、下着の布地がわずかに浮き上がっていた。心臓の鼓動が耳にまで響く。

「下着姿、いいですね。里帆さん、彩さん、胸の発達が順調です。武史くんもガッチリとした男性の体になってますね。」

藤原先生は淡々とメモを取りながらシャッターを切る。

「では武史くん、次は下着も脱いでください。男性器の発達を記録します。」

武史の心臓が激しく鳴った。
「え……全部、ですか……？」
声が上ずる。先生は微笑んだまま頷いた。

震える指で武史はパンツのゴムに手をかける。深呼吸をして、一気に下ろした。

その瞬間――

武史のおちんちんが、勢いよく飛び出した。